# 第5章
# パラグアイ

# 1. パラグアイの概要

## 1.1) 一般事情

1. 面積　40万6,752平方キロメートル（日本の約1.1倍）
2. 人口　685万人（2016年、パラグアイ統計局）
3. 首都　アスンシオン（Asunción）
4. 民族　混血（白人と先住民）95%、先住民2%、欧州系2%、その他1%
5. 言語　スペイン語、グアラニー語（ともに公用語）
6. 宗教　主にカトリック（信教の自由は憲法で保障）

## 1.2) 政治・経済

1. 政体　立憲共和制
2. 元首　オラシオ・カルテス大統領
3. 議会　二院制（上院45、下院80、任期5年）
4. 政府
   (1) 副大統領　フアン・アファラ
   (2) 外相　エラディオ・ロイサガ
5. 一人当たりのGDP
   ［名目値］4,368ドル　［実質値］（1994年基準）2,078ドル　（2013年　中銀）

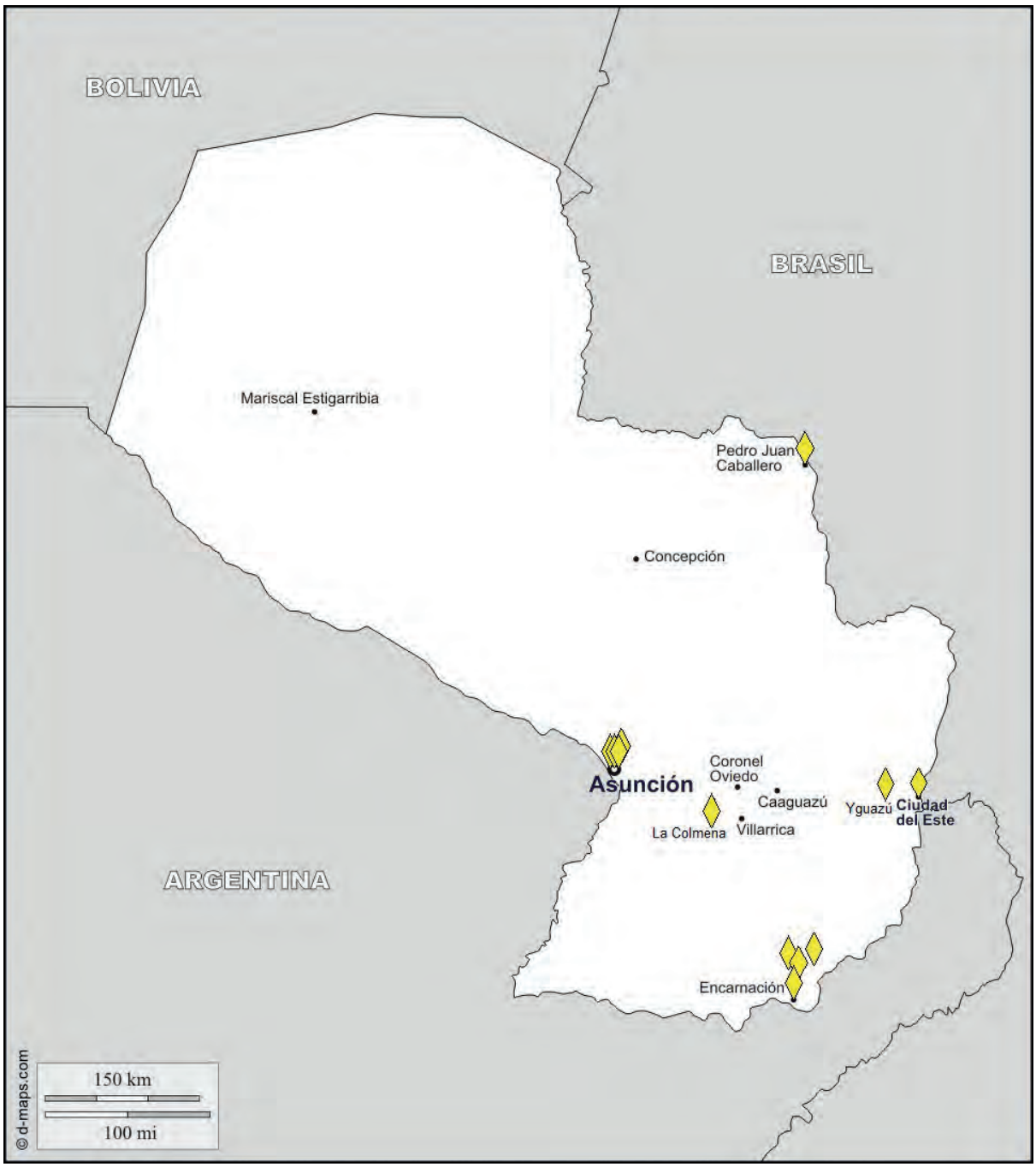
## 1.3) 教育制度等

1. 担当行政機関　教育文化省（Ministerio de Educación y cultura）
2. 学校制度　9・3・4～6制
3. 義務教育期間　6歳～14歳（1学年～9学年）
4. 学校年度　2月～11月
5. 学期制　3学期制（①2月～5月、②6月～8月、③9月～11月始め）
6. 授業料　公立校は無料、私立校は学校によって異なる。
7. 成人の識字率　94%
8. 初期教育純就学率　83%

## 1.4) 日本との関係

- 1919年　外交関係樹立
- 1953年　外交関係再開
- 1959年　移住協定締結（1989年　改定、効力無期限延長）

## 2. 日本語教育機関分布状況

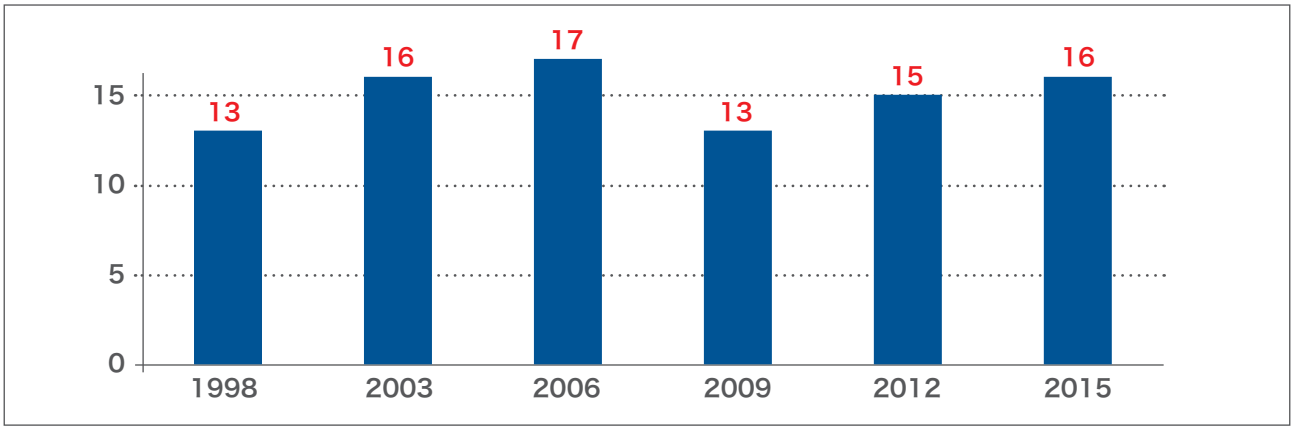



http://d-maps.com/carte.php?num_car=4488&lang=en

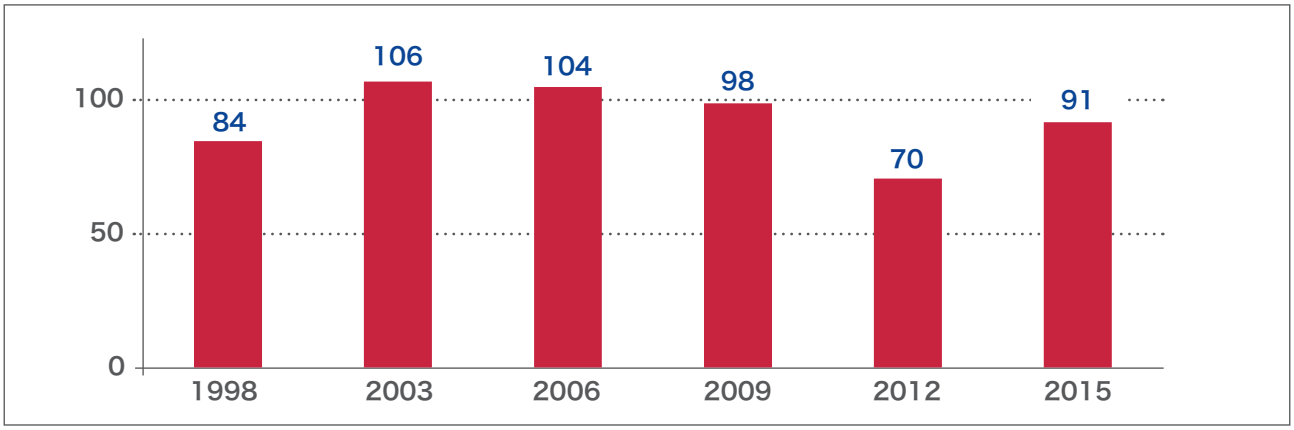
# 3. 日本語教育事情

## 3.1) 基本情報

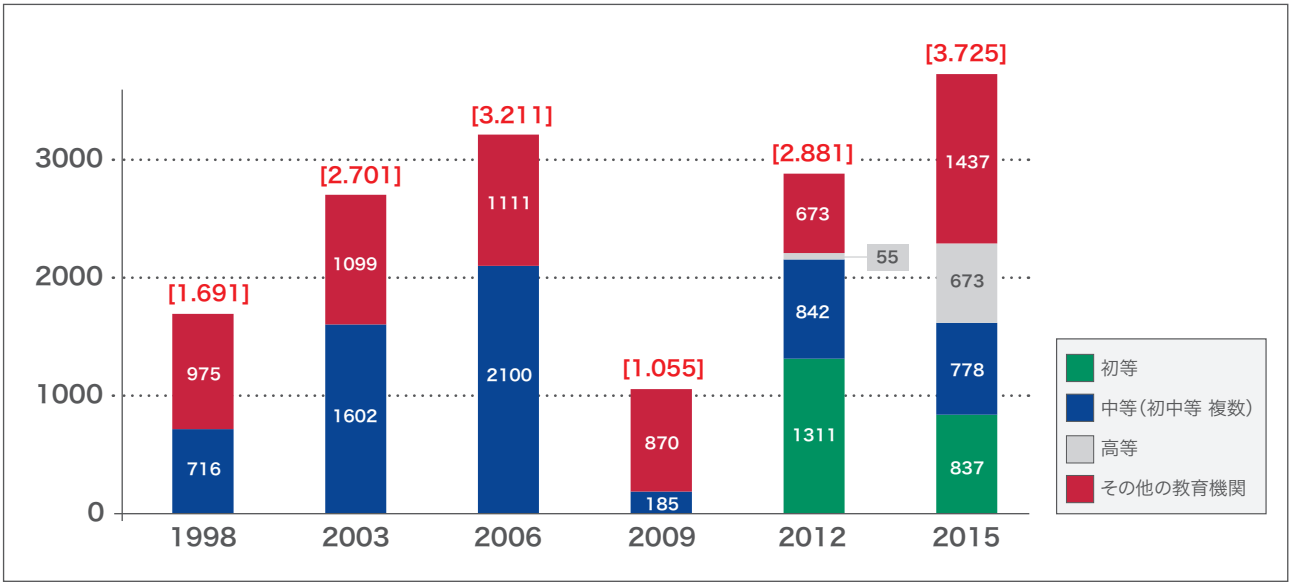
### 3.1.1) 機関数(1998年～2015年)



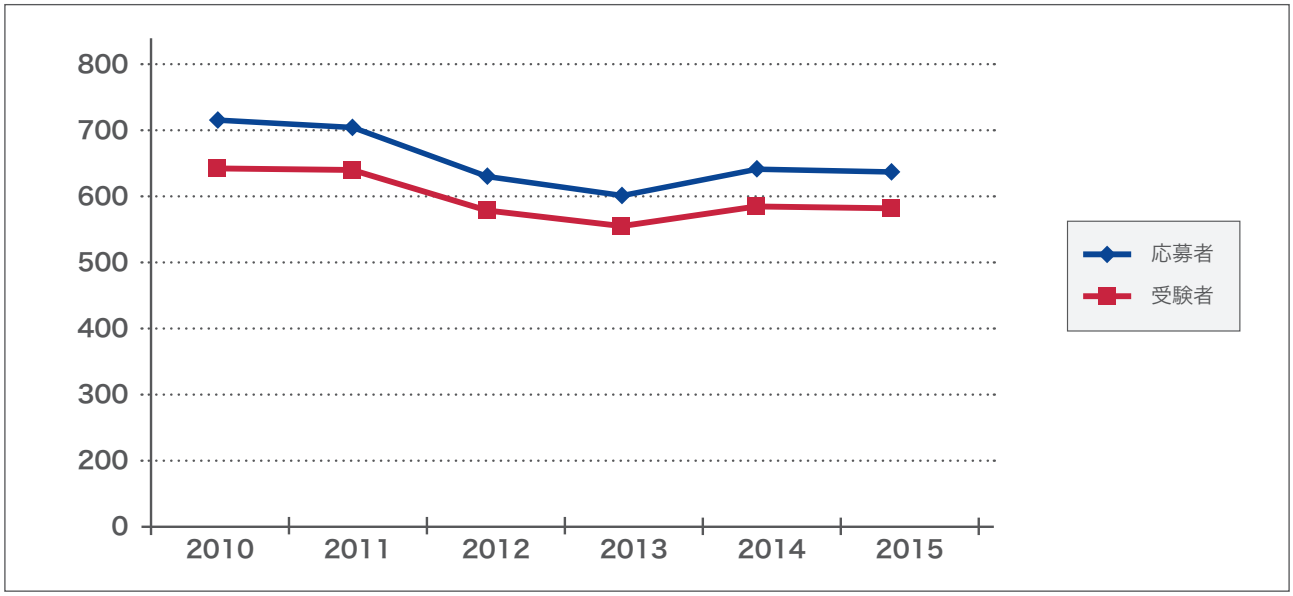

### 3.1.2) 教師数(1998年～2015年)




### 3.1.3) 教育段階別学習者数(1998年～2015年)



### 3.1.4) 日本語能力試験応募者数・受験者数(2010年～2015年)



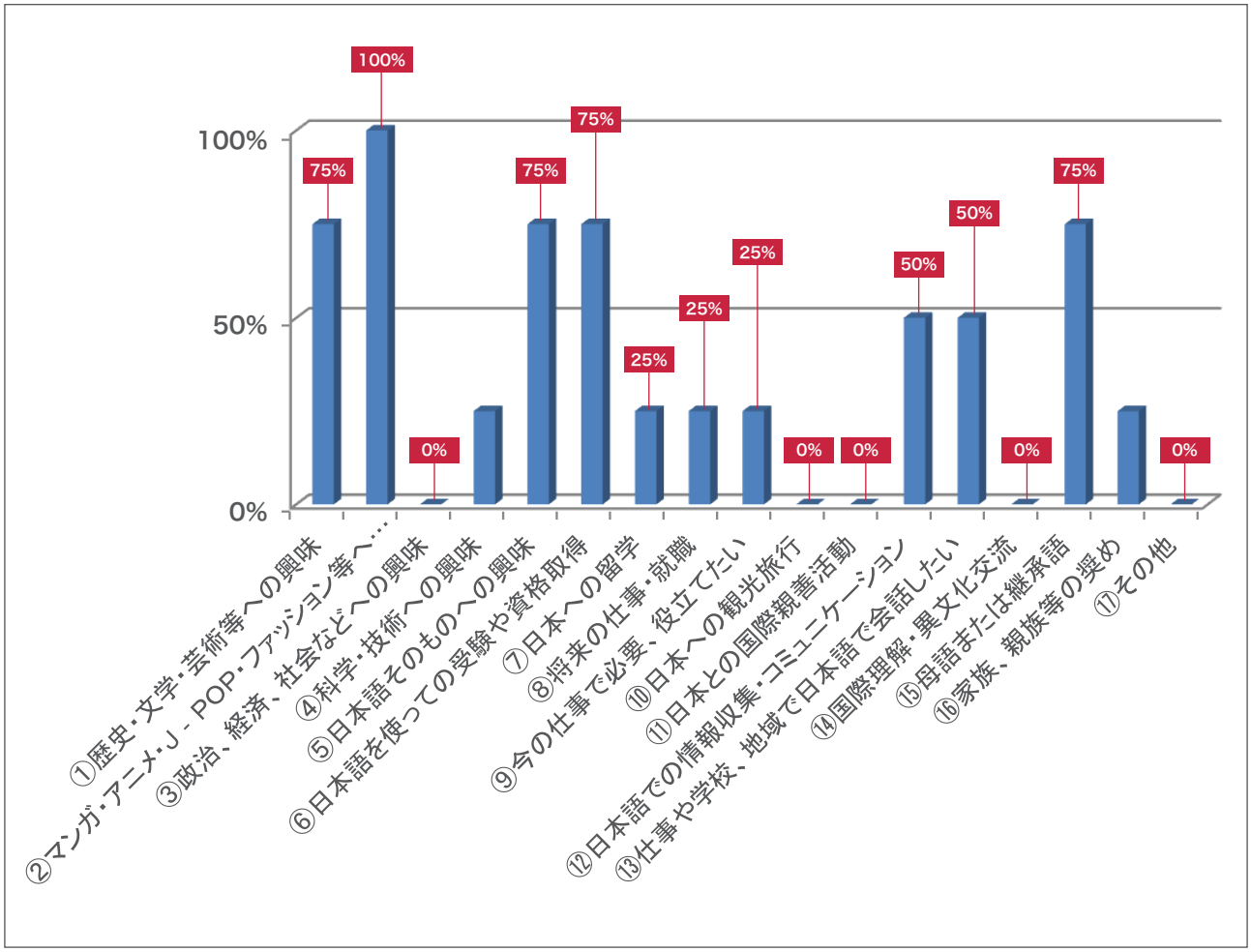

| | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 応募者 | 737 | 713 | 626 | 592 | 639 | 634 |
| 受験者 | 651 | 646 | 574 | 546 | 581 | 578 |

- 実施都市:　ブエノスアイレス(開始年:1989年)
- 時期:　7月と12月(2015年から年2回実施)
- 実施機関:　在亜日本語教育連合会

### 2015年　JLPTレベル別受験者数

| レベル | N1 | N2 | N3 | N4 | N5 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 19人<br>(4%) | 39人<br>(8%) | 55人<br>(11%) | 152人<br>(30%) | 237人<br>(47%) | 502人 |

### 3.1.5) 日本語学習の目的・理由(2015年)



### 3.1.6) 日本語教育実施状況（2015年）

| 項目 | スケール | 機関数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| A<br>学習者数に対する教師の数 | 多い | 0 | 0% |
| | ちょうどよい | 2 | 50% |
| | 少ない | 2 | 50% |
| | わからない | 0 | 0% |
| B<br>十分な日本語運用能力を備えている教師 | 4分の3以上 | 4 | 100% |
| | 2分の1程度 | 0 | 0% |
| | 4分の1以下 | 0 | 0% |
| | わからない | 0 | 0% |
| C<br>十分な日本語教授の知識・技術を備えている教師 | 4分の3以上 | 1 | 25% |
| | 2分の1程度 | 1 | 25% |
| | 4分の1以下 | 1 | 25% |
| | わからない | 1 | 25% |
| D<br>日本語教材、教授法に関して積極的に情報収集を行っている教師 | 4分の3以上 | 1 | 25% |
| | 2分の1程度 | 1 | 25% |
| | 4分の1以下 | 0 | 0% |
| | わからない | 2 | 50% |
| E<br>日本の文化・社会に関して積極的に情報収集を行っている教師 | 4分の3以上 | 1 | 25% |
| | 2分の1程度 | 2 | 50% |
| | 4分の1以下 | 0 | 0% |
| | わからない | 1 | 25% |
| F<br>学習者数に対して日本語教材の数 | 十分である | 0 | 0% |
| | 概ね揃っている | 2 | 50% |
| | 不足している | 2 | 50% |
| | わからない | 0 | 0% |
| G<br>現在使っている教材は学習者に合っているか | 非常に合っている | 0 | 0% |
| | どちらかといえば合っている | 4 | 100% |
| | 不足している | 0 | 0% |
| | わからない | 0 | 0% |
| H<br>現在使っている教材は教える内容・目的の面で適切か | 適切である | 1 | 25% |
| | どちらとも言えない | 3 | 75% |
| | 適切ではない | 0 | 0% |
| | わからない | 0 | 0% |
| I<br>施設（建物・教室）の状況 | よい | 1 | 25% |
| | 現状で支障はない | 3 | 75% |
| | やや支障がある | 0 | 0% |
| | わからない | 0 | 0% |
| J<br>日本語教育設備、機器の状況 | よい | 0 | 0% |
| | 現状で支障はない | 4 | 100% |
| | やや支障がある | 0 | 0% |
| | わからない | 0 | 0% |
| K<br>積極的に授業に取り組む学習者 | 4分の3以上 | 2 | 50% |
| | 2分の1程度 | 2 | 50% |
| | 4分の1以下 | 0 | 0% |
| | わからない | 0 | 0% |

※　無回答を除く　回答機関数4機関／16機関

## 3.2) 機関情報

### 3.2.1) パラグアイ日本人会連合会・全パラグアイ日系人教育推進委員会

**西語名：** La Federación de Asociaciones Japonesas en el Paraguay
Comité de Promoción Educacional Nikkei del Paraguay

**住所：** Carios, No1864. C/Rca. Argentina, Asuncion

**電話：** +59 - 21-555 213

**メール：** kyouiku_paraguay@hotmail.co.jp

**サイト：** http://rengoukai.org.py/ja

**概要：** パラグアイ日本人会連合会（以下、連合会）はパラグアイ各地の日本人会を統括する団体である。また、各地の日本人会が運営する日本語学校は同会下部組織である全パラグアイ日系人教育推進委員会（以下、推進委員会）のもと連携を保持している。推進委員会は2002年度に、教師中心の「パラグアイ日本語教育研究協議会」と連合会の「教育推進委員会」が合併したものであり、さくらネットワークメンバーになっている。

推進委員会はパラグアイにおける日系社会の教育部門を担当しており、各種教師研修の企画実施（「基礎コース」、「中級コース」、「応用コース」、「合同研修」など）、教材開発のほか、年刊機関誌『みおつくし』の発行、スピーチコンテスト、作文コンクール、日本語能力試験等各種日本語普及事業を通し、日系社会における日本語教育の推進活動を行なっている。[55]アスンシオン日本人会の敷地内に連合会事務局、推進委員会、アスンシオン日本語学校がある。推進委員会には日系社会シニアボランティアが1人派遣されており、パラグアイ全体の巡回指導を行っている。連合会に加盟している日本語学校は、10校あり、学習者の約8割が日系子弟であると言われている。

**【 パラグアイ日本人会連合会加盟の日本語学校 】**

| | 運営団体 | 学校名 |
|---|---|---|
| 1 | アスンシオン日本人会 | アスンシオン日本語学校 |
| 2 | アマンバイ日本人会 | アマンバイ日本語学校 |
| 3 | イグアス日本人会 | イグアス日本語学校 |
| 4 | エステ日本人会 | エステ日本語学校 |
| 5 | エンカルナシオン日本人会 | エンカルナシオン日本語学校 |
| 6 | チャベス日本人会 | チャベス日本語学校 |
| 7 | ピラポ日本人会 | ピラポ日本語学校 |
| 8 | ラ・コルメナパラグアイ日本文化協会 | ラ・コルメナ日本語学校 |
| 9 | ラパス日本人会 | ラパス日本語学校 |
| 10 | 日本パラグアイ学院基金 | 日本パラグアイ学院（公認校[56]） |

[55]「推進委員会の日本語教育方針
http://rengoukai.org.py/ja/comisiones-especiales/educacion/actividades/176-futuro-de-la-educacion-nikkei

[56] パラグアイの教育制度に則って設置・運営されている学校（公教育）

### 3.2.2) ニホンガッコウ、ニホンガッコウ大学

**西語名：**Colegio Nihon Gakko, Universidad Nihon Gakko
**住所：** Francisco Vergara C/ Acceso Sur, Fernando de la Mora, Departamento Central
**電話：** +595-21-501-300
**サイト：**www.nihongakko.edu.py
**概要：** 1993年設立の私立学校。元国費留学生であるアルバレンガ女史が、日本滞在中に日本式の教育に感銘を受け、帰国後に夫であるオルテガ氏とともに創設したパラグアイ教育省の認可を受けた学校。整理・整頓・清掃・清潔・躾（5S）などの考え方を取り入れている。2016年11月時点で、学習者が2,216人（幼稚園225人、小学校561人、中学校321人、高校318人、大学791人）おり、パラグアイの日本語学習者の6割を占める。児童生徒たちは、週に1回35分から45分の日本語の授業を受けている。日本語教師は3人おり、全員パラグアイ人。うち2人は日本への留学経験者。もともと専門が数学の教師が1人、英語・社会が専門の教師が1人、幼稚園から小学校3年生までを担当している教師が1人。同校で教える際、教員免許は必要であるが、日本語に特化したものではない。

ニホンガッコウ大学は夜間コースになっており、修士、博士課程もある。大学での日本語の授業は週に1回で、主に日本文化について扱った内容になっているが、将来的に教員養成課程の設置も検討されている。

### 3.2.3) 日本・パラグアイ学院

**西語名：**Colegio Japones Paraguayo
**住所：** Alfredo Seiferheld 4586 entre Gral. Torreani Viera y Mc Arthur, Asuncion
**電話：** +595-21-601-150/ 21-601-903
**メール：**cjp.coordinacionjapones@gmail.com（日本語部門コーディネーター丸山幸教諭）
**サイト：**www.colegiojaponesparaguayo.com.py
**概要：** 2001年にパラグアイの各種日系団体と日系有識者が合同で設立したパラグアイ教育文化省公認の私立校で、日本語が必修科目になっている。推進委員会加盟校。2015年までは午前は西語課程、午後は日本語課程となっていたが、2016年にカリキュラムが改定され西語課程が全日化され、部分的に日本語の授業が入る形になった。初等部の4年生から日本語を体系的に教えている。使用教材は、『子どもの日本語』の語彙を整理するなどして作成した『日パの日本語』。N5受験までは日パの日本語使用し、以後は『みんなの日本語Ⅱ』、『ニューアプローチ中級』『みんなの日本語中級』『文化中級』などが適宜使用されている。日本語の最終到達目標はN4またはN5と考えているが、JLPT受験は任意となっている。2016年の学習者数は288人（幼稚園44人、初中等195人、成人49人）、うち日系は約7%。同校では各教師が年に2回の研究授業を実施し、指導力向上に努めている。JICAの日本語教育ボランティア（JOCV）が1人派遣されている。

### 3.2.4) パラグアイ日本・人造りセンター

**西語名：** Centro Paraguayo-Japonés para el Desarrollo de Recursos Humanos (CPJ)
**住所：** Julio Correa y Domingo Portillo、Villa Guaraní、Asunción
**電話：** +595-21-607-279
**サイト：**www.facebook.com/CentroParaguayoJapones
**概要：** 1988年に日本政府の無償資金協力によって建設されたアスンシオン市役所付属の総合文化施設。敷地内に大きな劇場（日本語弁論大会会場として利用）や図書館がある。図書館には、日本関連の資料や大使館の分室がある。同センターの文化講座内に外国語コースがあり、日本語コースは初級から上級、JLPT対策コースがある。1988年から2016年6月までは継続してJICA青年海外協力隊が配属されていたが、2017年2月現在派遣なし。学習希望者は多いが、慢性的に教師不足の状態であり、講座数を増やすのは困難。学習者数は50人程度で、うちほとんどがパラグアイ人。12歳から社会人までの学習者が多い。

### 3.3) 教師会

| | |
|---|---|
| 機関名<br>（原語／日本語） | Unión de los Profesores de idioma Japones<br>／日本語教師の会 |
| 住所 | Carios, No1864. C/Rca. Argentina, Asuncion |
| 連絡 | 推進委員会に同じ。 |
| 設立／会員数 | 1981年/73人 |
| 目的 | 教師の親睦・交流、研修プログラム作成 |
| 活動 | 教師研修会、連絡会、会議開催<br>シラバス・カリキュラム、教材開発等 |
| 組織概要 | 連合会推進委員会加盟の10校の教師全員を会員としている。2010年7月より登録書類を提出することで、会員登録ができるようになった。年会費あり。 |

その他にも、各地に教師の集まりがあり、ピラポ、ラパス、チャベス、エンカルナシオンでは日系日本語学校教師が集まり、年4回の勉強会を実施している。

### 3.4) 教師資格・教師養成

#### 3.4.1) 教師資格

各機関で資格・条件を設定しているところもあるが、日本語教師としての資格要件は特にない。

#### 3.4.2) 教師養成

推進委員会が教師を対象に実施している研修があり、日本語教師合同研修会、幼児教育分科会、教師研修会、スキルアップ研修、また2012年度より開始した、校長・教務を対象にした校長・教務・運営者研修もある。日本語教師養成は教師研修会基礎コースが担っている。

| 研修名 | 内容 | 対象 | 頻度・時期 |
|---|---|---|---|
| 基礎コース（前半・後半） | 日本語教師としての基本知識、技能、日本文化など幅広い知識を得ることが目的。<br>講義→教案作成→模擬授業実施。 | 新人教師（N3以上） | 年2回（1月、7月）1回1週間 |
| 合同研修会 | 各日本語学校が持ち回りで開催。教材研究やグループ活動、講義、また訪日研修等への参加報告などを行う。 | 加盟校教師全員 | 年1回（1月） |
| 幼児教育分科会 | 幼稚園を持つ各日本語学校が持ち回りで開催。日本語を使用した実技指導や研究保育など、幼児教育の基礎知識の向上が目的。 | 幼稚園教師 | 年2回（6月）1回2日間 |
| 応用コース | 各地の日本語学校を回って行う。研究授業・合評会、講義、ディベートなどを実施。 | 加盟校教師全員 | 年1回（4月）1回2日間 |
| 中級コース | 事前課題として3~5回分の授業の教案を作成し、それを元に講師が指導する。 | 基礎コース修了者 | 年1回（7月）1回2日間 |
| 校長・教務（・運営者）研修 | 2012年から開始。各校の活動報告、講義、教育運営委員会会議を通して、より良い学校運営の在り方の共通意識を得ることが目的。 | 校長、教務、運営者 | 年2回（5月、11月） |

参考：連合会会報（2013年9月発行）他

## 3.5) 研修・助成利用実績

### 3.5.1) 教師対象

南米の日本語教師が利用できる教師研修には、JFの公募プログラムにある海外日本語教師研修、CBLJが行っている汎米研修がある(☞第一部3-2, 3-3)。また、日系人であれば、JICAの日系研修も利用可能である。

#### ► JF訪日研修参加実績(1989年～2016年)

| 年 | 研修 | 所属(申請当時) |
|---|---|---|
| 1989 | 長期研修 | ピラポ中央小中学校 |
| 1990 | 在外邦人研修 | イグアス日本語学校 |
| 1991 | 長期研修 | アマンバイ日本語学校 |
| 1991 | 在外邦人研修 | アスンシオン日本語学校 |
| 1992 | 長期研修 | アマンバイ日本語学校 |
| 1993 | 在外邦人研修 | パラグアイ三育学院 |
| 1994 | 在外邦人研修 | ピラポ日本人会 富美村日本語学校 |
| 1995 | 在外邦人研修 | イグアス日本人会立 イグアス日本語学校 |
| 1996 | 在外邦人研修 | ラパス日本語学校 |
| 1998 | 在外邦人研修 | ピラポ日本語学校 |
| 1999 | 長期研修 | パラグアイ・日本人造りセンター |
| 2001 | 在外邦人研修 | ラ・コルメナ日本人文化協会日本語学校 |
| 2002 | 短期研修 | エンカルナシオン日本語学校 |
| 2003 | 短期研修 | チャベス中央日本語学校 |
| 2003 | 在外邦人研修 | イグアス日本語学校 |
| 2008 | 長期研修 | パラグアイ・日本人造りセンター |
| 2009 | 長期研修 | むらししげまつカピタンバード日本語学校 |
| 2010 | 修士プログラム | ラパス日本人会立日本語学校 |

※ 在外邦人研修は現在行われていない。日系人研修は2012年度から開始。

2010年に修士プログラムに参加したワタナベ・タナカ・ミワ・カタリナ氏(10期生)の修士論文テーマは「パラグアイの継承日本語教育に関する保護者、学習者、教師の意識ー使用領域と教育目標を中心にー」。
http://www3.grips.ac.jp/~jlc/jlc/ronshu/2011/Miwa.pdf

## ► CBLJ汎米日本語教師合同研修会参加実績

| 年度 | 人数 | 機関 |
|---|---|---|
| 2004 | 1人 | ピラポ日本語学校 |
| 2005 | 2人 | アスンシオン日本語学校、エンカルナシオン日本語学校 |
| 2006 | 2人 | アマンバイ日本語学校、エンカルナシオン日本語学校 |
| 2007 | 3人 | アスンシオン日本語学校、エンカルナシオン日本語学校、ピラポ日本語学校 |
| 2008 | 2人 | 日本パラグアイ学院、エンカルナシオン日本語学校 |
| 2009 | 3人 | 日本パラグアイ学院、ピラポ日本語学校 |
| 2010 | 1人 | ピラポ日本語学校 |
| 2011 | 1人 | イグアス日本語学校 |
| 2012 | 1人 | アスンシオン日本語学校 |
| 2013 | 1人 | ピラポ日本語学校 |
| 2014 | 0人 | |
| 2015 | 4人 | 日本パラグアイ学院、ピラポ日本語学校、ラパス日本語学校 |
| **合計** | **21人** | |

その他に日系人の日本語教師が利用できる研修にJICAの日系研修がある。
www.jica.go.jp/partner/nikkei/index.html

### 3.5.2) 学習者対象

日系非日系を問わず利用できるものには、JF本部事業の「日本語学習者訪日研修」、FJSP主催の「南米中等教育生徒サンパウロ研修（以下、サンパウロ研修）」がある。サンパウロ研修の対象者は、公教育の日本語講座で2年以上の日本語学習経験がある13歳から18歳までの学習者が対象となっている。
日系人であれば、JICAの日系次世代育成研修[57]、CBLJ主催のふれあいセミナー[58]（費用は自己負担）などがある。CBLJによると、過去に同セミナーに10人[59]の参加実績があるとのこと。

#### ► JF日本語学習者訪日研修（各国成績優秀者）

日本語を学習し、優秀な成績を修めている学習者を2週間日本に招へいし、講義や研修旅行を通じて、日本語および日本文化・社会への理解を深める機会を提供するプログラム。以下は参加実績。

| 年度 | 人数 | 所属先（申請当時） |
|---|---|---|
| 1997 | 2人 | イグアス日本語高等学校、ピラポ中央小中学校 |
| 1998 | 2人 | アスンシオン国立大学、アメリカーナ大学 |
| 1999 | 2人 | アドベンチスト学院、パラグアイ農機械センター |
| 2000 | 2人 | AGYR旅行社、Automovil Supply S.A. |
| 2001 | 2人 | アスンシオン国立大学、ラプラタ・アドベンチスト大学 |
| 2002 | 1人 | アスンシオン日本語学校 |
| 2003 | 0人 | |
| 2004 | 1人 | 国立アスンシオン大学工学部土木科 |
| 2005 | 0人 | |
| 2006 | 1人 | アスンシオン国立大学 |
| 2007 | 1人 | アスンシオン国立大学哲学部 |
| 2008 | 1人 | カトリック大学 |
| 2009 | 1人 | UNIDA大学 |
| 2010 | 1人 | カトリック大学 |
| 2011 | 1人 | イタブア国立大学 |
| 2012 | 1人 | カトリック大学 |
| 2013 | 1人 | ラパス農業協同組合 |
| 2014 | 1人 | パラグアイ日本・人造りセンター |
| 2015 | 1人 | アスンシオン国立大学 |

※ 参加者は、国際交流基金海外拠点または在外公館の推薦にもとづき、関西国際センターが決定する。パラグアイでは、JLPTの成績最優秀者が選ばれる。日系・非日系を年ごとに交互に選出する。日系の場合N1の成績最優秀者、非日系の場合N2またはN3のいずれかの成績最優秀者。

57 詳しくは各国JICA事務所、支所に問い合わせください。
58 詳しくはCBLJのサイト（www.cblj.org.br）を参照。
59 CBLJ情報（2016年5月）

### ► JF南米中等教育生徒サンパウロ研修

国内の中等日本語教育機関のうち、同研修の対象となる機関はいくつかあるが2016年までの参加実績は以下の3校である。

| 機関名 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 ニホンガッコウ | | 1人 | | | |
| 2 日本パラグアイ学院 | | 1人 | | 1人 | 1人 |
| ラ・コルメナ日本語学校[60] | 2人 | | | | |

## 3.5.3) 機関支援（助成）

2009年度まで海外における日本語教育の分野には「海外日本語講座現地講師謝金助成」、「海外日本語弁論大会助成」、「海外日本語教育ネットワーク形成助成」、「日本語教材寄贈」があったが、2010年度よりこれまでのプログラムを統合した新しい公募助成プログラム「日本語普及活動助成」が実施されるようになった。また、同助成は2017年度より名称が「海外日本語教育機関支援（助成）」に改められた。[61]

| 年度 | 機関 | 助成 |
|---|---|---|
| 2007 | 日本パラグアイ学院 | 海外日本語講座現地講師謝金助成 |
| 2007 | パラグアイ日本人会連合会 | 海外日本語弁論大会助成 |
| 2007 | 日本パラグアイ学院 | 日本語教材寄贈 |
| 2007 | パラグアイ日本・人造りセンター　語学部門 | 日本語教材寄贈 |
| 2008 | パラグアイ日本人会連合会 | 海外日本語弁論大会助成 |
| 2008 | 日本パラグアイ学院 | 日本語教材寄贈 |
| 2008 | 日本語教師の会 | 日本語教材寄贈 |
| 2009 | 日本パラグアイ学院 | 海外日本語講座現地講師謝金助成 |
| 2009 | パラグアイ日本人会連合会 | 海外日本語弁論大会助成 |
| 2009 | 日本パラグアイ学院 | 日本語教材寄贈 |
| 2009 | パラグアイ日本・人造りセンター | 日本語教材寄贈 |
| 2009 | 日本語教師の会 | 日本語教材寄贈 |
| 2010 | パラグアイ日本人会連合会 | 学習者奨励活動助成 |
| 2011 | 日本語教師の会 | 教材購入 |
| 2011 | パラグアイ日本人会連合会 | 学習者奨励活動 |
| 2013 | パラグアイ日本人会連合会 | 学習者奨励活動 |
| 2014 | パラグアイ日本人会連合会 | 学習者奨励活動助成 |
| 2015 | パラグアイ日本人会連合会 | 学習者奨励活動助成 |

60 その他の教育機関のため2013年から対象外。

61 参考：「平成29年度公募プログラムガイドライン」www.jpf.go.jp/j/program/dl/guidelines_j_2017.pdf

## 3.6) 出講・派遣実績

### 3.6.1) JF専門家

#### ► 出講実績

| 年度 | 訪問先／研修会名 | テーマ／内容 |
|---|---|---|
| 2001 | 日本語教育巡回セミナー | 会話力の定着を目的とした教材の利用法<br>日本語教育における動機づけ |
| 2016 | 2016年度日本語教師合同研修会 | 『まるごと　日本のことばと文化』概要、理論、実践 |

### 3.6.2) JICAボランティア[62]

1983年から2016年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計131人（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア28人、日系社会青年／シニアボランティア103人）。

#### 【 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア 】

| | 配属先 | 人数 |
|---|---|---|
| 初中等教育 | エスコバル学園 | 1人 |
| | 国立工業高校 | 2人 |
| | ニホンガッコウ | 4人 |
| | 日本パラグアイ学院 | 2人 |
| | さくら小学校 | 1人 |
| 高等教育 | アスンシオン大学哲学部言語学科 | 2人 |
| その他 | アスンシオン市役所日パ人造りセンター | 14人 |
| | 教育文化省カリキュラム局 | 2人 |

[62] JICAナレッジサイト「国別派遣概況【中南米】※外部公開用※」

## 【 日系社会青年ボランティア・日系社会シニアボランティア 】

| | 配属先 | 人数 |
|---|---|---|
| 日系日本語学校 | ラ・コルメナパラグアイ日本文化協会 | 13人 |
| | イグアス日本人会 | 13人 |
| | ラパス日本人会 | 8人 |
| | アマンバイ日本人会 | 14人 |
| | エンカルナシオン日本人会 | 15人 |
| | ピラポ日本人会 | 8人 |
| | アスンシオン日本人会 | 7人 |
| | パラグアイ日本人会連合会 | 10人 |
| | エステ日本人会 | 8人 |
| | アマンバイ日本人会カピタンバード支部 | 5人 |
| | チャベス日本人会 | 2人 |
| | 日本語教育研究協議会 | 1人 |

## 【 2017年3月の派遣状況 】

| 配属先 | ボランティア | 期間 |
|---|---|---|
| ニホンガッコウ大学 | シニア海外ボランティア | 2016年6月～2018年6月 |
| ラ・コルメナパラグアイ日本文化協会 | 日系社会青年ボランティア | 2015年7月～2017年7月 |
| パラグアイ日本人会連合会 | 日系社会シニアボランティア | 2015年7月～2017年7月 |
| イグアス日本人会 | 日系社会青年ボランティア | 2016年6月～2018年6月 |

# 4. 行動計画

## 4.1) 現状認識

【地理的状況】

広さは日本とほぼ同程度（約1.1倍）。1936年から計画移住が行われており、戦前の入植地にはラ・コルメナ、戦後はチャベス、フラム（フジ、ラパス、サンタロサ）、ピラポ、イグアスがある。日本語教育機関は、首都アスンシオン以外に、前述の入植地やブラジル国境近くのアマンバイなどにある（☞2.日本語教育機関分布状況）。

【日本語教育の沿革】

移住開始と同時に移住者子弟に対する日本語教育が始められた。現在も一部の移住地では継承日本語教育が行われているが、移住地の中でも、継承日本語教育と日系日本語教育が併存しているところもある。アスンシオンなどの都市部では、一機関の中で継承日本語教育、日系日本語教育、外国語としての日本語教育が行われているところもあり、現場は多様化する日本語教育への対応を迫られている。いずれにも中等教育段階までの年少者を対象とした日本語教育が中心である。限定的ではあるが、外国語としての日本語教育を行っている教師の中には、課題遂行を重視した『まるごと　日本のことばと文化』を使っている人もいる。

【日本語教育の全体的状況】

2015年のJF日本語教育機関調査では、機関数16、教師数91、学習者数3,725で、機関数、教師数、学習者数は、概ね増加傾向にある。特に高等教育機関とその他の教育機関の学習者数が増加している。高等教育機関は1機関しかなくニホンガッコウ大学のみ。その他の教育機関の学習者数が増加したのは、日系日本語学校が非日系の学習者を受け入れるコースを始めたことなどしたことが影響していると考えられる。また、初中等教育段階の学習者は全体の約44%を占めている（☞3-1）。主な機関はJLPT受験者数のうち、上位級の受験者の割合が高く、移住地の日本語学習者の日本語力の高さが窺える（☞第一部4-3）。

【日本語学習の目的・理由】

継承日本語教育・日系日本語教育を行っている機関も多いが、日本語学習の主な目的・理由の割合でもっとも高いのは、アニメ・マンガなどのポップカルチャーとなっている（ただし、回答機関は4機関/16機関）。次いで、歴史・文学、科学・技術、日本語を使っての受験や資格取得、並びに母語または継承語の割合が高い（☞3-1-5）。

【日本語教育実施状況】

全体的に課題として認識されている項目は見られないが、機関によっては、教師や教材の数、および教師の教授知識・技術が十分でないと捉えられているようである。外国語としての日本語教育が行われている国と比べると、積極的に授業に取り組む学習者の割合が低めである（☞3-1-6）。日系にルーツを持つ学習者は本人の意思というより親の意向で日本語を学習していることが多く、動機が低いと言われることがあるが、ここでも同様の傾向が見られる。

【中核機関／主要機関】

JFにほんごネットワーク（通称さくらネットワーク）のメンバーになっている全パラグアイ日系人教育推進委員会（以下、推進委員会）とする。推進委員会は、日系社会の日本語教育において中心的な役割を担っている（☞3-2-1）。また、公教育の中で日本語教育を実施している機関の中で主要機関と考えるのは、日本語が正規科目として教えられているニホンガッコウおよび日本パラグアイ学院である。ニホンガッコウでは初等から高等教育まで、すべての学習者が日本語を学んでいる（☞3-2-2, 3-2-3）。

【ネットワーク状況】

日本での研修（JF訪日研修、JICAの研修）やCBLJ主催の汎米研修と4か国代表者会議を通して、日本やブラジル、また日系社会のあるアルゼンチン、ペルー、ボリビアとのネットワークが構築されている。2015年と2016年の南米会議を通して、その他のスペイン語圏の国との機関同士および教師間の日本語教育ネットワークも構築されつつある。

【教師養成、教師研修】

推進委員会が定期的に行っている各種教師研修があり、その中の「基礎コース」が教師養成を兼ねている（☞3-4-2）。JF訪日研修の利用は多くはないが修士課程プログラムの修了者が1名いる。JF助成の利用、ブラジルで行われている汎米研修は積極的に利用されている（☞3-5-1, 3-5-2）。

【公的派遣実績】

2001年の巡回セミナーと2016年の合同研修会の2回、JF専門家が出講（☞3-6-1）。1983年から2016年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計131人（☞3-6-2）。現在派遣中のJICAボランティアは4名。

【特記事項（最新動向など）】

ニホンガッコウは、幼稚部から高等教育（ニホンガッコウ大学）まですべての教育段階があり、全校生徒が日本語を学んでいる。また、ニホンガッコウ大学では、将来的に日本語教員養成課程を設置することが検討されている。高等教育機関への日本語教員養成課程導入は重要項目であるため、今後の動きを注視しつつ、動きがあった場合には優先度を上げ、対応していきたい。

## 4.2) 方針と具体策

**(1)** 外国語としての日本語教育が行われている**公教育（初中等教育）機関における学習者数の維持**に努める。

- **イ)** ニホンガッコウおよび日パ学院は、JICAと連携のもと、年少者対象の日本語教材、日本語カリキュラムの整備等を行う。
- **ロ)** FJSPは、サンパウロにおける学習奨励研修の実施、および大使館・JICAと連携のもと、主要初中等教育機関の要請に応じる形で、助言等を行う。

**(2)** 学習者数が増加傾向にある**その他の教育機関における日本語学習者数の維持・拡大**に努める。

- **イ)** 推進委員会が、大使館・JICAと連携のもと、引き続き学習奨励活動、多様なニーズに合わせた教師研修等を行う。
- **ロ)** 推進委員会が、その他の日系社会を抱える国と連携し、情報交換、課題の共有、課題解決策の検討等を行う。
- **ハ)** 日系日本語学校が、日系人のみならず、非日系の学習者を取り込むことで学習者の裾野拡大を図る。
- **ニ)** FJSP・MCは、大使館・JICAと連携のもと、推進委員会の要請に応じる形で、教師研修（年少者の日本語教育など）などへ出講したり、JF訪日研修や助成スキームなどに関する情報提供・助言等を行う。